TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

信仰から繁栄へ　コロサイ人への基本事項　生き延びること

コロサイの信徒への手紙2:1−10

2024年7月27日 & 28日
ジェシー・セザリオ　牧師

共に礼拝に参加されている皆さんにご挨拶申し上げます。TBCウェストトウキョウ、TBC美郷、福岡インターナショナルチャーチ、スヴァとトンガバプテストチャーチの皆さんにも恵みがありますように。

お祈りしましょう。

コロサイの信徒への手紙 2:1-10
[1]あなたがたとラオディキアにいる人々のため、また、私とまだ直接顔を合わせたことのないすべての人のために、私がどれほど苦闘しているか、知ってほしい。[2]それは、彼らの心が励まされ、愛によって結び合わされ、溢れるほど豊かな洞察を得て、神の秘義であるキリストを深く知るようになるためです。[3]知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠されています。[4]私がこう言うのは、あなたがたが誰にも巧みな議論でだまされないようにするためです。[5]私は、体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰を見て喜んでいます。[6]あなたがたは、このように、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。[7]キリストの内に根を下ろし、その上に建てられ、教えられたとおり信仰によって強められ、溢れるばかりに感謝しなさい。[8]空しいだまし事の哲学によって、人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、人間の言い伝えに基づくもの、この世のもろもろの霊力に基づくものであり、キリストに基づくものではありません。[9]キリストの内には、満ち溢れる神性がことごとく、見える形をとって宿っており、[10]あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威の頭です。

初めに

コロサイの教会で起きていたことをおさらいしましょう。コロサイの教会は、生まれたばかりのもっとも小さな教会でした。パウロはまだこの教会を訪れたことがなく、コロサイの信徒たちは使徒に会ったことが無く、クリスチャンになりたてのエパフラス以外には、他のクリスチャンに会ったこともありませんでした。エパフラスは素直に福音を故郷に持ち帰り、そこで福音の力と神様の力が働き始めたのです。それは育ち、そして花開きました。

今日は2章を紐解いていきます。その前に、第1章でコロサイの人たちが福音を通して救われたという知らせを受けて以来、パウロと彼と共に仕える者たちは、彼らのために絶えることなく祈り続けていると、伝えていることを思い出しましょう。

パウロはまた、神の御子イエス様の卓越性、つまり万物は御子によって、御子のために造られたので、イエス様は全てのものの上におられることを教えました。また、イエス様を通して、全て造られた者は贖われ、その内面を新しくされます。創造の順序において、私たちが創世記から知っているように…あとの者が先になっている、それは花嫁…彼の教会です。
今日の聖書箇所からは、パウロがコロサイの教会にたった一つのことを望んでいることが分かります。それは彼らが生き延びることです。

第1章の終わりから、パウロは、コロサイの信徒たちをクリスチャンとして成長させるべく訓練する願望を述べていて、それに続きパウロは、コロサイの信徒たちが、どうしたら教会として生き残ることができるかに話題を移します。

注目してください。これは、私たちがどうしたら教会として生き残ることができるか、でもあります。

さて2章に入って、パウロはラディオキアの信徒について述べていて、のちに4章でも、彼らに手紙を書いたことを述べていますが、今日この手紙は読めますか？　いいえ。

ヨハネの黙示録3章でもラディオキアの教会が出てきますが、この教会について褒められたことは何一つありません。ラディオキアの教会は、金持ちであることを誇り、その行いにおいて生温いと表現されています。イエス様は彼らの生温さゆえ、ラディオキアの教会を口から吐き出したいと言っています。またその繁栄ゆえに、彼らは「惨めで、哀れ、貧しく、目の見えない、裸の者」だと言っています。アイタタタ…

その後、西暦60年、ラディオキアは大きな地震に襲われ、崩壊します。歴史的な証拠よると、ラディオキアは自分たちの富を誇示するあまり、政府が都市再建のために提供した資金を受け入れませんでした。パウロがラディオキアの教会に宛てた手紙が残っていないのも納得です。

私たちは、ラディオキアの破滅は、彼らのプライドと生ぬるい信仰によるものだったことを心に留めておきましょう。何かしら学べることがあるはずです。

祈りはどこにいても聞かれる

コロサイ 2:1 で、パウロは彼らのために大いに苦闘していると言っています。この「苦闘」にあたるギリシャ語は「agona」という単語で、「奮闘する」とか「抗争」といった軍事的な意味合いがあります。この単語はまた、オリンピックにも関係しています。当時のオリンピックはシャレになりませんでした。選手が死んでしまうこともあったのです。

ですからパウロはここで、自分がいかにコロサイの信徒のために闘争しているかを伝えようとしています。ここまでの手紙の内容からして、パウロは祈りによって戦っていることが推測されます。パウロ自身はまだコロサイに行っていないからです。5節でもまた「体では離れていても、霊ではあなたがたと共にいて」と、この概念を述べています。

これは、祈りはどこからでも、どこのためにも、どれだけ離れていても有効であることの良い証拠です。Tシャツのデザインに使えそうです！前回は…覚えていますか？「祈らなきゃ始まらない」でした。今日は「祈りはどこにでも有効」です。

どこで祈っても本当に効果があるのか、疑問に思ったことがありますか。どうしてどこからでも祈りが聞かれるとわかるのでしょうか。

第1章を思い出してください。イエス様は全てのものの上におられます。祈りを聞かれるのはイエス様です。イエス様に祈るとき、私たちはどんなことを祈っても、イエス様において答えられると確信を持つべきです。

あなたが困難に直面した時、不可能に思える状況に置かれた時は、祈りを疑ってはいけません…何故ならあなたはイエス様に祈っているのですから。

ヘブライ人への手紙 4:14-16
「[14]さて、私たちには、もろもろの天を通って来られた偉大な大祭司、神の子イエスがおられるのですから、信仰の告白をしっかり保とうではありませんか。[15]この大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪は犯されなかったが、あらゆる点で同じように試練に遭われたのです。[16]それゆえ、憐れみを受け、恵みにあずかって、時

宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。」

これにイエス・キリストの卓越性を加えてみてください。神の栄光の輝きそのものかつ、神の完全な肖像であり、その御言葉によってすべてのものを支える方です。この方は私たちや、私たちが祈っている人たちを思いやってくださる、その方なのです。

ですから、例え何千キロと離れていても、大勢の人たちのためにでも、自然災害の際に海外から祈っても、それは時間の無駄ではないのです。

何千キロも離れた所にいる、知らない人のための祈りも聞かれます！会うことができない人や知らない人のために祈るのを止めないでください。距離や祈りの対象が誰であるかに関わらず、祈りによって戦いに出ましょう。

まさに、パウロのコロサイの信徒のためのウォールームでの祈りのように…会ったこともない、遠く離れた所にいた、たくさんの人々のために…どこからでも、だれのためにでも。

でも、自分が誰に祈っているのかを知らなければなりません。あなたは自分が誰に祈っているのか、ちゃんと知っていますか。

生き延び続ける

パウロの主な気がかりは、コロサイの信徒たちが、神の秘義であるキリストを本当に知っているかということでした。

過去の弟子訓練と教会開拓の経験から、教会の芽が出て、若木から成熟した木に成長するまでの生き残りに何が関係するか、パウロは良く知っています。

自然に生えるどんな木も厳しい環境にさらされるように、パウロは、コロサイの信徒たちにも正しい知恵と知識をもって備え、構えることを望んでいます。

これをシナリオ・プランニングと呼びます。

シナリオ・プランニングは軍事戦略の一環として生まれました。戦闘において、敵が試みる得る複数のシナリオに備えるために開発されました。後に、企業が競合相手の戦略に対応して生き延びるために、ビジネスの世界にも導入されました。

時が経つにつれ、シナリオ・プランニングは、特定の競合相手ごとの複数のシナリオに対して、それぞれどのように備えるかには重点を置かなくなりました。コストが掛かることと、持続するのが困難だったためです。今日のビジネスは、効率よくかつ経済的に備えるべく、ほとんどのシナリオに応用できる一つの大きなプラン・戦略を見つけるようになりました。

パウロは聖霊によって、2000 年前にすでにこれを理解していました。パウロはコロサイの信徒たちに、強力で、でもシンプルな一つの戦略を教えました。

コロサイの信徒たちへの手紙は今日もこうして残っています。コロサイの信徒たちは手紙を失わず、生き延びました。どうやって？パウロが教えた戦略を実行したのです。どんな戦略だったのでしょうか。

その戦略はシンプルなものでした。いいですか？　キリストとは誰かを知ること、です。

「あ～、キリストはもう知ってるんだけど。ジェシー、それだけ？」と思っているかもしれません。そう、それだけです。聖書が言っているのはそれだけです。

あなたがもしもパウロだったら、ここで、このような生まれたばかりの教会にどんな戦略を勧めますか。ちょっと考えてみてください。

「聖書を読みなさい」はどうでしょう？　いい答えですね。
「良い本や聖書の注釈書を手に入れなさい」とか「いい説教者のメッセージを聞きなさい」はどうでしょう。悪くはありません。
「エパフラス牧師を神学校に送りなさい」とか。可能性としてはなくもない。

でもこれらのどれもうまくはいかないでしょう。なぜか？彼らには聖書は一冊しかありませんでした。それだけです。コロサイの信徒たちは、エパフラスから福音を聞いただけで、あとは霊的な歌をいくつか知っていただけなのです。

2024 年の今、私たちはいつも決まって言っています。家で何か読んで勉強しなさいと。これは問題です。

さて、パウロの効果的な戦略とは何だったでしょうか。
コロサイ 2:2「…愛によって結び合わされ、溢れるほど豊かな洞察を得て、神の秘義であるキリストを深く知る…」

エフェソの信徒への手紙 4:4-6「4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。5 主は一人、信仰は一つ、洗礼（バプテスマ）は一つです。6 すべてのものの父なる神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内におられます。」

キリストは本ではありません。キリストは人です。キリストは歴史上の人物ではありません。キリストは生きておられる方です。キリストは完璧な人です。そしてキリストは生き方の完璧なお手本です。

ですから、単純に福音…万物の主が愛のゆえに私たちの代わりに死ぬべく下って来た…を理解することは、イエス様を知る初めとして十分です。なぜなら、他者を愛することは、イエス様のようになることであり、またイエス様を知ることだからです。

イエス様を知るには、イエス様の生きた人生を生きることです。それについてただ読むのではなく。

でも、あんまりやる気が出ない…のではないでしょうか。
つまり、もし生死に関わるような緊急事態だったら、私たちも皆気が変わり、助け合い気にかけあうことでしょう…自分を犠牲にしてでも。

どうしたら、命の短さと生き残らなければならないというプレッシャーを感じ、コロサイ人のようになれるでしょうか。コロサイ人と違って、私たちは差し迫った死や、生き残りの懸念はありません。

でもちょっとした知識を得ることで、コロサイ人のようになれるかもしれません。

一年は約 50 週です。この地上で 20 年生きたら、その間に日曜日が約 1000 回やってきます。80 歳まで生きたら、人生で日曜日を 4000 回迎えることになります。今あなたが 40 歳だとしたら、特に問題がなければ、80 歳までにあと 2000 回教会に来られるということです。

でも良いのはここまでです。皆さん、教会で毎週 1 時間半ほどを過ごされるでしょうか。だとすると教会で過ごす時間は、40 年間で 3000 時間です。もしあなたが今 40 歳だったら、教会で愛をもって隣人に奉仕し、キリストのように生きられる時間はあと 3000 時間です。3000。大した時間ではありません。周りを見渡してみてください。この空間にいる人たちと過ごせる時間は 3000 時間しかないのです。

命の短さを少し実感できますか。

今日の応用です。

自分の身近にいる人たちを愛する準備をしてください。時間切れになる前に。
あなたは準備しできていますか。あなたはキリストの愛に満ちた人ですか。そうでないとしたら、そうなれると思いますか。

キリストがあなたをどのように愛したか、考えてみてください。その愛をもって、イエス様を愛してください。イエス様を、イエス様の身体である教会を、できる限り最善の方法で愛してください。

それは次第に良くなっていくでしょう。あなたが他の人を愛するにつれて、あなたは教会の文化に影響を与え、もっと多くの人が他の人を愛するようになるでしょう。その数は加速度的に増加して、ある日、あなたが先に愛した教会に、あなたが愛される日が来るでしょう。

ラディオキアの教会では、愛しあうのを止めてしまい、勢いを失い、立ち消えてしまいました。

教会に対するパウロのシナリオ・プランニングは当時の世代だけではなく、将来の世代にも適用できるプランニングでした。
パウロは教会が長く生存することを望みました。パウロは教会の文化が重要であることを知っていました。なぜでしょうか。教会という団体の文化は、次世代へと引き継がれ、しばしば牧師やその時代の会衆よりも長く生き続けるからです。

あなたにはこの認識がありますか？あなたが、教会の未来と生き残りに影響していると知っていましたか？これはしっかり意識していなければなりません。あなたは今日だけでなく、明日の教会の一部でもあるのです。

あなたがイエス様につながっており、イエス様のように愛することで、あなたは、成長し続けて生き残る教会を育てているのです。
これこそがパウロが言っている、「愛によって結び合わされる」ということです。私たちはこれを実行しなければなりません。

ですからエフェソの信徒への手紙 4:4-6 で、一人の主、一つの信仰、一つの洗礼をもって、霊による一致を保つように教える前に、1-3 節で「[1]ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。招かれたあなたがたは、その招きにふさわしく歩み、[2]謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、[3]平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。」と言っているのです。

惑わし防止
パウロは、自分がこれらのことを言うのは、彼らが哲学によってだまされないようにするためだと4節と8節で言っています。私たちをだまそうとする哲学は二つのものに基づいています。人間の言い伝えと、この世の原則です。

このメッセージの準備に当たって、私はパウロがここで述べている哲学が具体的にどんな哲学なのかを知るために、様々な理論を読み聞きしました。グノーシス主義のことだという人もいれば、ユダヤ教の政党主義者や、キリスト教の禁欲主義やギリシャ・ローマのカルトだという人もいます。

私自身、これについての膨大な量の本や注釈書に目を通してみましたし、たくさんの牧師が詳細に渡って研究してきています。
しかし実際の所は、正確には誰にもわからないのです。パウロがどの哲学を示唆しているのかは不明です。

でもこの事実こそが大事なところです。
私たちは闘いを生き残るために「敵を知り、己を知る」必要はありません、中国の武将であり哲学者でもあった孫氏が生き残るために言った言葉です。

なぜなら、勉強することだけに忙しく、解明することに気を取られていると、視野が狭まって大局的な視点を失い、一日中本に顔をうずめていることになります。虚しさと欺瞞にかられ、正しいリサーチと哲学の代わりに、ブラックホールから抜け出せなくなってしまいます。

別の角度から見てみましょう。
哲学に当たる英単語の「philosophy」は実は二つの言葉、「愛」と「知恵」から成り立っています。知恵が欲しくない人がいるでしょうか。だれだって賢くなりたいものです。

「幸いな者とは知恵を見いだした人／英知にあずかった人」箴言 3:13
「知恵は真珠にまさり／どのような財宝も、これに並びえない」箴言 8:11

知恵への願望は、世の初めから人間にとって非常に大事なものでした。
人間がエデンの園で神様の命令に従うことを止めてしまった時、それは起こりました。エデンの園には外から流れてくる水源があったのです。その水源とは何だったのか…それは後程。

リンゴに話を戻しましょう。
エバが禁じられた果実を一口かじると、それはエバを賢くしました。エバが次にした「賢いこと」は何だったでしょうか。アダムにも実を食べさせました。二つ目の罪です。エバが命じられたのは、その実を食べないことと、夫を助けることの二つでした。彼女はどうするべきだったでしょうか。

お答えします。賢くなることを愛するのではなく、愛することが賢いことだったのです。

イエス様の内に歩む
私たちはみんな、エバと同じ罪を犯しかねません。研究・解明に没頭し、大切なことを見逃してしまうのです。

ヨハネによる福音書 5:39-40, 42
「[39]あなたがたは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を調べているが、聖書は私について証しをするものだ。[40]それなのに、あなたがたは、命を得るために私のもとに来ようとしない。
[42]しかし、あなたがたの内には神への愛がないことを、私は知っている。」
なぜ彼らの内には神への愛がなかったのでしょうか。彼らは神の御子を信じなかったからです。

ヨハネの手紙一 4:14-16「[14]私たちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証ししています。[15]誰でも、イエスを神の子と告白すれば、その人の内に神はとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。[16]私たちは、神が私たちに抱いておられる愛を知り、信じています。神は愛です。愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。」

知恵を求めて、事実上、夫を殺す羽目になる代わりに、エバは、夫を愛し、夫が必要としているのは何かに気を配るべきでしたが、エバは夫の必要には興味がありませんでした。エバには愛がありませんでした。

フィリピの信徒への手紙 2: 3-5
「[3]何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい。[4]めいめい、自分のことだけではなく、他人のことにも注意を払いなさい。[5]互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにも見られるものです。」

私たちはこのようにして、イエス様の内に歩み、イエス様のようになり、イエス様のように考えることができるのです。

私たちが生き残る教会でありたいなら、自分たちの必要だけではなく、他の人の必要を常に心に欠ける文化を作り上げなければなりません。

他者の必要を満たそうとする文化を作り上げれば、それはあなた自身に帰ってきます。

同時に、他の人を助けるために何かが必要になったら、私たちは正しいところに助けを求めます。

ヨハネの黙示録 22:1「天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように光り輝く命の水の川を私に見せた。」

その正しいところとは、神の玉座です。

あなたは神の玉座に行き、イエス様の名によって求めなければいけません。イエス様は主であり、その体に神の完全性が宿っている、神様でもあるからです。

ヘブライ人への手紙 4:13
「神の前にあらわでない被造物はなく、すべてのものは神の目に裸であり、逃れることはできません。私たちはこの神に弁明しなければなりません。」

神様の御臨在は、エデンの園とは反対です。源は私たちの内に宿っているからです。イエス・キリストの内にあって、神様は私たちの内におられ、私たちはいつでの恵みの王座に近づくことができるからです。

ですから自分では誰かを助けるのはもう無理だと思う時、私たちはその人のために神の玉座の下に行くことで、自信をもって他者を助けることができるのです。どこにいても、誰のためにでも、短い命が過ぎる前にでも。

ヨハネによる福音書7:38
「私を信じる者は、聖書が語ったとおり、その人の内から生ける水が川となって流れ出るようになる。」

主イエス・キリストを信じましょう。イエス様を信じることによって、命の源があなたの心の内に宿ります。そして、どうしたら賢くなれるか、ではなく、他者の必要に興味を持つことにより、どうしたら他者を愛することができるかを追求することで、あなたの心から愛の川が流れ出ます。そうすることで、あなたは愛するという賢い選択ができるようになります。
それこそが、イエス様の内に歩むということです。そして、キリストを中心とした人生を生きることです。それが永遠の命を与えられるということです。

祈りましょう。

ジェシー・マーク・セザリオ
東京バプテスト教会
2024年7月27&28日

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3124jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月8日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: どなたでも

☆クラス 201
霊的成長について
9月22日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 101 を修了し、メンバーの方
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu